

ロビン・ティチャーティ指揮 スコティッシュ・チェンバー・オーケストラ

今、欧米で話題の新進指揮者
ロビン・ティチャーティ登場!



メンデルスゾーン / 序曲「フィンガルの洞窟」

シューマン / ピアノ協奏曲 イ短調 op.54

ベートーヴェン / 交響曲 第5番「運命」

ピアノ: マリア・ジョアン・ピリス

2014 **2/15** 土 PM 2:00

愛知県芸術劇場コンサートホール

S ¥15,000 A ¥12,000 B ¥9,000
C ¥7,000 D ¥5,000 学生 ¥3,000 (税込)

学生券 ご希望の方は往復ハガキに、希望公演名、公演日時、住所、氏名、年齢、電話番号、学校名、学籍番号を明記の上、中京テレビ事業「学生券」係までお申込みください。公演の3週間前に抽選の上、お席をお取りできるか否かご連絡致します。往復ハガキ1枚につき、1公演1名様でお願い致します。

■プログラム内容等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
■未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断り致します。

主催 / 中京テレビ放送 企画・運営 / 中京テレビ事業

お問合せ
お申込み **中京テレビ事業 ☎052-957-3333**

〒460-8613 名古屋市中区錦3-15-15 CTV錦ビル6F (月~金 AM10:00~PM5:00 / 土・日・祝日休業)

<http://cte.jp> 中京テレビ事業

座席表からお席をお選びいただけます!

5/25(土) 発売開始!

AM10:00~

中京テレビ事業チケットセンター	052-320-9933
チケットぴあ (Pコード 196-768)	0570-02-9999
ローソンチケット (Lコード 48161)	0570-084-004
愛知芸術文化センター-PG	052-972-0430
栄プレチケ92	052-953-0777
e+ (イープラス)	eplus.jp
名鉄ホールチケットセンター	052-561-7755
中日サービスセンター	052-263-7282

チケット販売所

新鋭ティチャーティと情熱の人ピリスの共演

〈音楽ジャーナリスト 片桐 卓也〉

南フランスの空港に夏、降り立つとかすかにラヴェンダーの匂いがするけれど、スコットランドではヒースの薫りが混じっているような気がする。天気が変わりやすく、夏でも時には急に寒い風が吹いたりすることもある北国スコットランド。そんな風土の中で育ったオーケストラは、逆にとても暖かい音を持っている。スコットランドのオーケストラには特に地域性、風土性が強く感じられる気がするの、私だけだろうか。

エジンバラに本拠を置くスコティッシュ・チェンバー・オーケストラは

2009～10年のシーズンからロビン・ティチャーティを首席指揮者に迎えた。ティチャーティは1983年生まれだから、まだ30歳。しかしオーケストラのみならず、オペラでも活躍を続けている注目の若手指揮者だ。日本でもモーツァルトの『フィガロの結婚』（クラウス・グート演出）を指揮しているが、その時はまだ20代半ば。洗練としているだけでなく、音楽の呼吸がとても自然で、若手とは思えないほどの経験も感じさせてくれた。イギリスは時として、こうした大器を生み出すようだ。

さて、そのティチャーティとスコティッシュ・チェンバーが日本ツアーを行なう。ピアニストのマリア・ジョアン・ピリスが同行するのも嬉しい。プログラムは後半にベートーヴェンの『運命』、協奏曲はシューマンが用意された。共演者を慎重に選ぶピリスが、このティチャーティとこのオーケストラと共演するということだけで、如何に彼らがヨーロッパで音楽的に評価されているのかが分かる。情熱と清々しさに加え、暖かみのあるオーケストラの音色が、新しい体験に皆さんを誘うだろう。



ロビン・ティチャーティ (指揮)

Robin Ticciati, Conductor

1983年ロンドン生まれ。現在、スコティッシュ・チェンバー・オーケストラの首席指揮者およびバンベルク交響楽団の首席客演指揮者。また、2014年からはグランドボーン音楽祭の音楽監督に就任する。

本年シンフォニー・コンサートだけでもバイエルン放送響、ロイヤル・コンサートヘボウ管、フリーヴランド管、フィラデルフィア管、ロンドン響、ハレ管、ロッテルダム・フィル、スウェーデン放送響、ミラノ・スカラ座フィル、ロサンジェルス・フィル等から招かれている。

また、オペラも多く、グランドボーン音楽祭で「ドン・ジョヴァンニ」、ザルツブルク音楽祭では「フィガロの結婚」、メトロポリタン歌劇場で「ヘンゼルとグレーテル」、ロイヤル・コヴェントガーデン歌劇場で「エフゲニー・オネーギン」、ミラノ・スカラ座で「ピーター・グラィムズ」等世界の主要歌劇場から招かれている。ヴァイオリン、ピアノ、パーカッションを学び15歳の時指揮に転向。サー・コリン・デイヴィス、サイモン・ラトル等に学び、ハイティンク、デュトワ等にも引き立てられている。



マリア・ジョアン・ピリス (ピアノ)

Maria João Pires, Piano

1944年7月23日リスボンに生まれ、1948年には公開の場で初演奏を行った。

ポルトガルにおいて、カンポス・コエリョとフランシーヌ・ブノワに師事。後にドイツにてローゼル・シュミットとカール・エンゲルに師事する。

15年に渡りエラート・レーベルで収録をしてきたが、その後ドイツ・グラモフォンに移籍し、すでに15年間ドイツ・グラモフォンでレコーディング活動を行っている。

ピリスは1970年以来、芸術が人生、社会、学校に与える影響の研究に没頭、社会において教育学的な理論をどのように応用させるか、その新しい手法の開発に身を投じてきた。破壊的で、物質優先の論理を強調するグローバリゼーションに対して、個人の成長を尊重する新しいコミュニケーションの仕方を研究した。1999年に芸術研究のためのセンター、ベルガイシュを創立、現在、ベルガイシュにおける哲学と教育を、スペインのサラマンカやブラジルのパビアに広めている。2005年、「アート・インプレッションズ」という演劇、ダンス、音楽の実験的グループを結成した。

2013年3月にはロンドン交響楽団のソリスト、チェリストのアントニオ・メネセスとのデュオとして来日、全国9公演を行い、各地で絶賛を博した。現在はベルギーに居を構え、シャベル・エリザベト王妃音楽学校で教鞭を執っている。



スコティッシュ・チェンバー・オーケストラ

Scottish Chamber Orchestra

スコティッシュ・チェンバー・オーケストラ(スコットランド室内管弦楽団)は、イギリス・スコットランドのエジンバラを本拠地とする室内オーケストラである。1974年に設立。エジンバラのクィーンズ・ホールを拠点としてスコットランド地方で活動しており、エジンバラ国際音楽祭でも活躍している。主要な首席指揮者として、ユッカ=ペッカ・サラステ、アイヴィー・ボルトン、ヨゼフ・スヴェンセン(現名誉指揮者)らが務め、桂冠指揮者故チャールズ・マッケラスも頻りに客演していた。現在は30歳にして世界的な活躍を見せているロビン・ティチャーティが首席指揮者を務めている。主なレコーディングは、サラステ指揮でモーツァルト交響曲集、マッケラス指揮でモーツァルトの主要なオペラと、マッケラス指揮アルフレート・ブレンデルのピアノでモーツァルトのピアノ協奏曲集、同じくマッケラス指揮で室内オーケストラとして初めてのブラームス交響曲全集などがある。

TOENEC

情報通信

電気設備

ビルを快適に

工場を快適に

病院を快適に

学校を快適に

省エネ住宅設備

空調管設備

エコソリューション

あたらしい快適を
ていねいに。

株式会社 トーエネック

www.toenec.co.jp 本店 名古屋市中区栄1-20-31 〒460-0008 TEL.052-221-1111